審 査 の 結 果 の 要 旨

氏名　エルワギー　エハブ　モハメド　アリ

本論は、中世イスラム都市カイロを素材として、建築・都市空間のヒエラルキッシュな構成原理とその背後に存在する意味体系を明らかにしたものである。イスラム都市研究は１９９０年代から盛んになり、日本でも多くの研究が蓄積されてきたが、その複雑な空間構成と意味について総合的な理解を示すまでには至っていなかった。本論はイスラムにおける建築・都市の物理的な空間がいかなる観念を背景にして形成されたかについて、はじめて統一的な解釈を試みたという点で、先行研究を一歩乗り越えたものである。

本論は３部から構成される。第１部は当該分野における先行研究の批判的検討とイスラム法シャリーアおよび宗教教典コーランから導かれる空間の意味体系の提示を行っている。続く第２部では伝統的イスラム都市における空間のヒエラルキーを、主としてシャリーアを典拠としながら、社会・近隣・家族・個人およびパブリック・セミパブリック・セミプライベート・プライベートという枠組みで分析する。第３部は上記の基礎的考察から導き出された空間概念を用いて、中世イスラム都市カイロのケーススタディを行い、その妥当性を検証している。

第１部は２章からなり、第１章では伝統的な社会的・精神的原則の基礎となったイスラム法シャリーアの意味および起源について検討を加え、イスラム建築および都市環境に対する人々の基本的な観念や振る舞いについて明らかにする。第２章では具体的にあらわれているイスラム都市空間のさまざまな要素について概観し、それがいかにイスラム法や宗教教典と深く結びついているかに注目する。

第２部冒頭の第３章では、イスラム社会における生活全般を規定したと考えられるシャリーアを詳しく分析し、それが個人から社会へと至る同心円的な都市空間のあり方、公共空間と私的空間の分節と密接不可分な関係にあったことを論じている。第４章ではイスラム社会の精神的パラダイムを取り上げ、イスラムにおける宗教的宇宙観および象徴主義的な概念の抽出を試みている。ここでは「中心」「垂直軸」「水平方向」という方向・位置概念および「空間」「形態」「表層」という空間概念が現実の建築・都市空間の組成の基本的枠組みを与えていることが指摘されている。

第３部では、上記４章での基本概念を具体的に適用すべく、カイロのケーススタディが行われている。すなわち第５章でカイロの歴史的都市形成過程を通観し、空間を構成しているヒエラルキー（階層性）とユニティ（統一性）の概念の導出が計られる。第６章では都市の動的な性格に焦点を移し、カイロという都市の具体的空間体験を通して、空間と空間を結合・分節する仕組みについて論究する。そして終章である第７章で全体的な結論が述べられる。

以上みたように、本論は従来迷宮空間として捉えられてきたイスラム都市は、形態的には複雑な様相を呈していたとしても、その背後にある空間構成原理はきわめて明快であって、宗教的・歴史的に育まれた宇宙観や象徴性がその前提となっていたことを一部仮説的ではあるにせよ、可能な限り実証したのであり、その成果は、当該分野の研究史上有益な貢献となっている。また、推論のプロセスも一定の妥当性をもつものと評価される。

よって、本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。